

業況観測アンケート（2021年度 第4四半期）調査結果 （前年同期比）

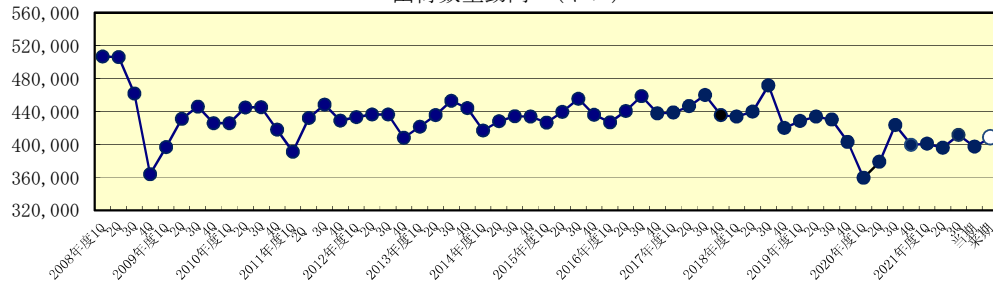
2022/4/28

集計企業数 33社

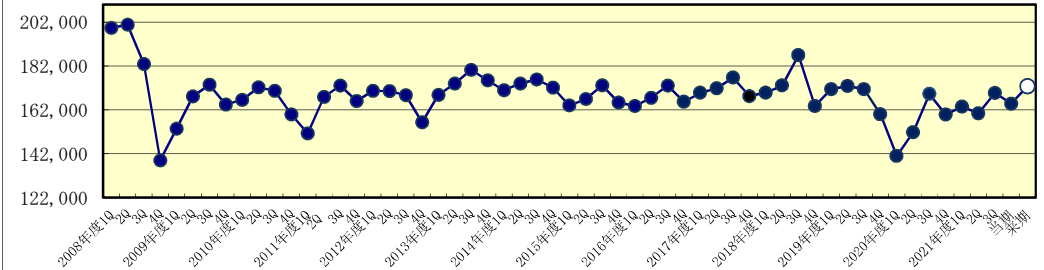
（アンケート値指数換算）

	出荷数量 動向			出荷金額 動向			製品在庫 (期末)			製品価格 動向		
	前 期	当 期	来 期	前 期	当 期	来 期	前 期	当 期	来 期	前 期	当 期	来 期
+50%超	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
+45%～+50%未満	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.4	0.0	0.0	0.0	0.0
+40%～+45%未満	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
+35%～+40%未満	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
+30%～+35%未満	0.0	0.0	0.0	0.0	0.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.6
+25%～+30%未満	0.0	0.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.2	0.0	0.4	0.4	0.0
+20%～+25%未満	0.0	0.0	0.6	1.1	1.0	0.6	0.0	0.0	0.2	0.0	0.6	0.4
+15%～+20%未満	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.0	1.8	0.0	0.0	0.6	0.0	0.1
+10%～+15%未満	0.0	0.0	0.0	0.9	0.0	9.4	0.0	0.4	9.4	0.4	0.2	0.0
+5%～+10%未満	12.5	3.9	2.6	4.0	3.8	2.6	8.0	5.5	2.9	2.6	10.9	14.1
+5%未満	4.7	12.4	20.2	3.9	21.4	12.9	7.7	20.3	10.6	15.7	7.8	4.2
± 0%	1.2	1.9	5.8	1.0	3.0	3.8	5.0	4.3	6.5	12.6	12.1	12.8
-5%未満	3.0	2.6	2.2	11.6	1.0	1.8	10.0	0.5	3.1	0.0	0.7	0.7
-5%～-10%未満	9.2	11.0	1.4	9.6	1.7	0.9	0.1	1.4	0.1	0.7	0.3	0.0
-10%～-15%未満	0.2	0.4	0.3	0.3	0.5	0.0	0.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
-15%～-20%未満	2.1	0.1	0.0	0.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
-20%超	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

出荷数量動向（トン）



出荷金額動向（百万円）



業種別動向観測アンケート（2021年度第4四半期）調査結果

2022/4/28

（前年同期金額比）

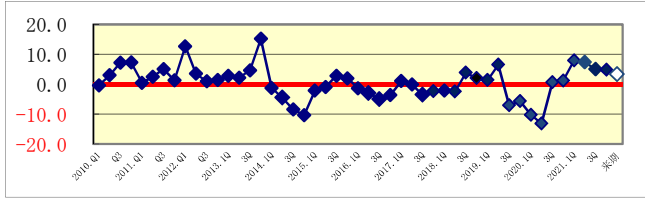
集計企業数 31社

当期(1~3月)実績

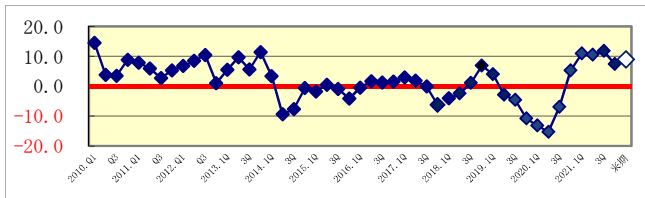
建築	建築資材	道路車両		船舶・構造物	機械・電気機械・金属	木工製品	家庭用	トラフィックペイント
		新車	補修					
4.9	7.4	-0.9	2.1	1.2	1.4	-1.2	-11.6	-0.4

メーカーのコメント例

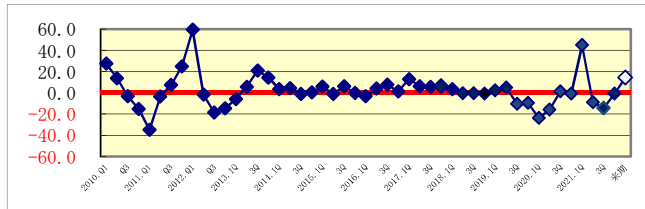
建築・外装
 ・ウクライナ情勢の緊迫化や資源価格の高騰も影響し、消費マインドが今後冷え込むことが懸念されたが、コロナ感染拡大後の工事延期等も改善し、需要は回復基調にある。



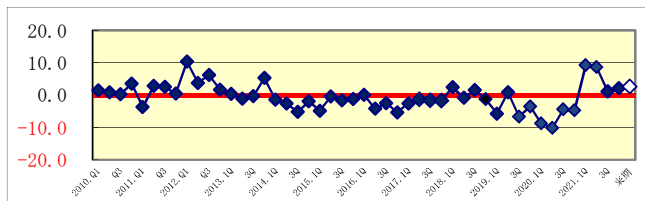
建築資材
 ・郊外戸建て住宅需要や窯業建材向け塗料等が堅調に推移しており、社会情勢不安に伴う今後の動向は不透明であるが回復傾向が継続している。



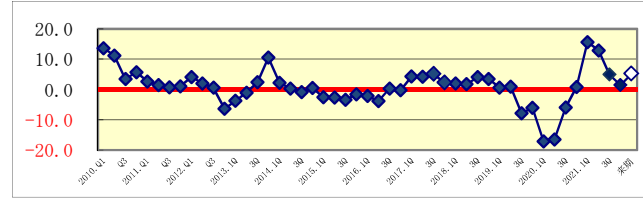
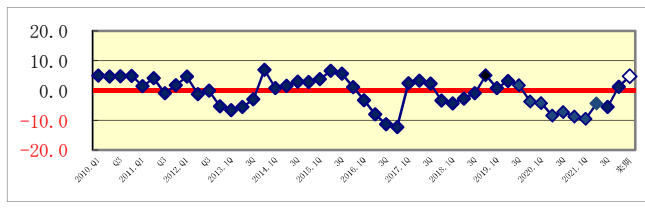
新車
 ・全体的にはほぼ前年並みであるが、コロナ影響及び部品供給の停滞による各自動車メーカーの減産・生産調整の影響など今後懸念される。



補修
 ・コロナ禍からの回復に伴う自動車利用の増加が継続しており、若干ではあるが前年同期を上回った。

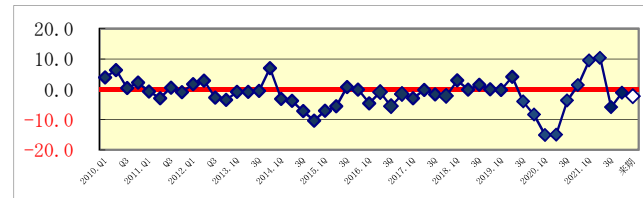


船舶・構造物
 ・船舶関連では一部に新造船受注の回復はみられるものの全般的には原料価格の高騰もあり依然厳しい状況である。
 ・構造物関連では利益は厳しいものの、需要は増加傾向にある。

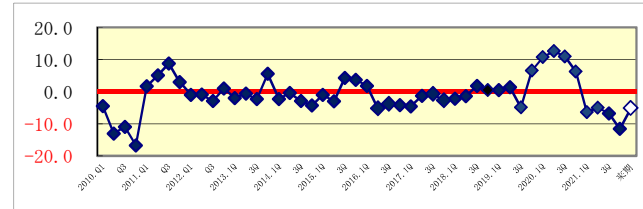


メーカーのコメント例

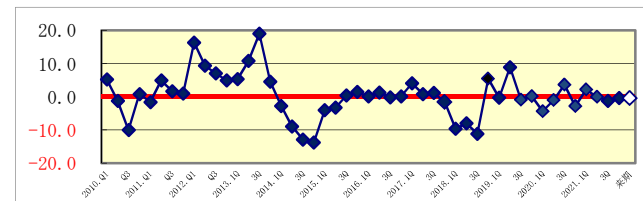
機械・電気機械・金属製品
 ・部品不足の影響も有るが、建設機械や工作機械は回復傾向を維持しており、わずかに前年を上回る見込み。



木工製品
 ・原料価格の高騰や原料製造中止の動きに加え、木材価格の上昇等の懸念も有り、前年同期を下回った。



家庭用
 ・昨年の巣ごもり需要特需の反動から、ホームセンターその他の需要も減り、前年同期を大きく下回る結果となった。



トラフィックペイント
 ・公共工事の工事遅れ等もあるが、ほぼ前年並みで推移している。

◆ 業種別動向観測アンケート（四半期）の回答の「前期」・「当期」データを月次の解析方法に従って計算した。
 ◇ 「来期予測」回答データを同様に計算した。

全体
 ・原材料価格の高騰、円安、さらにはウクライナ侵攻の影響による政情不安もあり見通しは不透明である。価格改訂等の活動も行われており、金額は増加傾向であるが、厳しい状況は続いている。

